



# 篠五だより

令和6年  
10月31日発行  
江戸川区立  
篠崎第五小学校  
No.7

学校ホームページ



## 子供たちの自信と誇り

校長 山田 勇一郎

2学期がスタートしてここまで気温の高い日が多い2カ月でしたが、11月を迎え、ようやく学習に運動に全力で頑張るのに快適な気候となりました。

ところで、教室の快適な環境とは物理的な温度ではありません。心理的な環境も大切です。つまり、良い空気、雰囲気大切です。良い雰囲気づくりには、まず第一に、教員が子供一人一人を人として尊重し、個性を大切に愛情をもって接することが肝要です。そしてもう一つ大切なことが、子供同士の人間関係です。互いに認め合い、思いやり合い、時に助け合い励まし合う、誰しものが心地よい居場所のある教室です。教室という集団生活の場では、様々な考えや生活習慣をもった子供と一緒に過ごします。したがって、どの子にとっても心地よい雰囲気の教室であるためには、子供同士が互いを大切に尊重し合う必要があります。しかし、そのような態度は誰しものが生まれながらに備わっているものではなく、学校や家庭での教育によって備わるようになるものです。私たち教員の大切な仕事の一つは、間違いなく、「誰しものを大切に尊重する考えと態度を自ら子供に示し、教えること」です。このような考えのもとに、教職員一同、子供の「夢と勇気と笑顔にあふれる学校」を胸に、教育活動に尽力しています。

さらに篠五小は「太陽のあいさつあふれる学校」を目指しています。私も校長として、日々、子供一人一人に真心・思いをたっぷり込めて心を繋げて、喜び、幸せ、感謝を伝え合うようにあいさつをしています。そのような中で、時に外部の方から子供たちのよさを褒めていただくと、心から嬉しさを味わうと同時に篠五の子供たちを誇りに思います。例えば6年生が移動教室に行った際にも、同行した看護師さん、バスガイドさん、宿舎の方々からそれぞれに「篠五の子供たちは、先生たちが何も言わなくとも、自然に当たり前のように気持ちよくあいさつしてくれて感激しました。」「礼儀とマナーに思いやりの心が伝わってきて素晴らしいです。」などの有難いお言葉をいただきました。

先日、その6年生の何人かに篠五小の子供たちの自慢、誇りに思えることってありますかと尋ねたところ、「仲の良いみんなの絆」「明るく元気」「何でも一生懸命がんばる」「心が育っている」など様々ある中、全ての子が「あいさつ」を挙げていました。

子供たちがこの篠五のあいさつを自分たちの誇りに感じていることに大きな大きな喜びを抱きました。これからも子供たちが自分、そして学校の誇りと自信をもてることを大事に育てていきたいと思えます。今後とも保護者、地域の皆様と一緒に手を携えて子供たちを育てる共育・協働へお力添えいただきますようよろしくお願いいたします。